新年にあたり

町長　五十嵐重雄

明けましておめでとうございます。

昨年は物価の高騰、賃金の大巾引き上げ、政権の交替等、激動の一年でありました。

物価狂乱のうちに迎えました今年こそ総べての安定を希ってやまぬものがあります。

まだ〳〵容易ならぬものがあり、お互に覚悟を新たに頑張らねばならぬ昭和五十年だと思います。

年頭にあたり町民の皆様のご健勝をお祝い申し上げますと共に、所信の一端を申し述べ皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

◇新年度の町事業は

◎道路下水を整備して生活環境を良くする

◎福祉事業の推進を図り住みよい町づくりをする

このことは従来と変りなく実施する所存でありますが、特に本年は社会教育の拠点となる社会教育センターの竣工と相俟って、その活動の強化を図るため次の事項を重点施策と致します。

一、青年の健全育成

二、体育施設の充実

◇財政事情は

次に財政見通しの問題でありますが、インフレと不況が同居するという、きびしい経済情勢のもとに、緊縮財政を迫られることは当然であります。自主財源の乏しい本町においては、才入の増加はそれ程見込まれないのに、一方才出面におきましては、どうしても支出しなければならない義務的経費が年々増大しております。

◇その要因は

一、幼稚園、保育所、体育館老人憩の家、社会教育センター等の町民生活関連施設整備による維持管理費

二、社会福祉施策の拡大によるもの（特に国の基準をこえる部分）

三、才入増加率を上廻る人件費の増加

この義務的経費の支出増加は、町民の要望する事業投資が削減される結果となりますので、初年度の予算編成に当りましては、既定経費の洗い直しをすると共に、事務の合理化を徹底する考えであります。

◇全日制高校の誘致

次に高校の誘致運動をすすめたい所存であります。

定時制小須戸分校が閉鎖となりますが、これは四十九年度の新入生が七名で現在五名となっており、定高としては県下最低の数字となっております。その上五十年度は小須戸中からの定高入学希望者がゼロという現状から五十年度の生徒募集が停止と決りました。この問知事、県会議長並に県教育長と存続方について再三接渉したのでありますが、全日制高校の学級不足から中学浪人を出している現在五名の生徒のために一学級存置するということは出来なかったのであります。

ご承知のように定時制分校の閉鎖は、全日制高校への進学率が高くなった結果であり働きながら学ぶこの制度の廃止ではありません。

本町の四十九年度の高校進学率は九〇％を越えて、県の平均を上廻っております。県では九二％を目標にしておりますが、本町でもまだ上昇が見込まれます。

「せめて高校までは」と努力される父母の力が今日の高校進学を一般化するまでに至ったのでありますが、このように全員が高校へ進学するなら小、中学校と同じに町に高校を設立すべきだという考えになります。

◇高校誘致の必要性

五十年には町ぐるみ県立高校の誘致運動を進めることとしたいのでありますが、その理由としては、

▼中学校卒業生二〇〇名の九〇％以上が高校進学する実状では生徒数から見ても、高校設立の必要がある。

▼高校進学が一般化した今日、地方の中心的都市にのみ高校を偏在さすべきでなく、生徒数を見て適地に配置すべきである。

▼新津、加茂、白根高校の学級不足を、その中間に在る小須戸町に設置して、緩和を図るべきである。

▼学校は教育文化の中核的役割を持つものであり、地域格差解消のためにもその設置は普遍化すべきものである。

然しこの運動の展開に当っては種々困難な問題も考えられます。

● 財政負担について

用地一万五千坪と建設費の二割を地元負担

● 小須戸高校に小須戸の生徒が入学するか

亀田町では四十九年度に莫大な町費を負担して高校を建設したが、さっぱり地元から入学出来なかった。また八年掛りで実現した地元高校に男子六名、女子九名しか入学しなかった等他市の例もあります。亀田は新潟勢に押しまくられて入学出来なかったもの他は学校格差を考えて入学しなかったものであります。

● 新津市と競合するか、協力するか

この問題は運動展開の推進力、負担、位置が絡みむづかしいことですが一応考慮の必要があります。

◇むすび

以上困難な問題もありますが、運動も長期に亘る覚悟で、将来の町づくりのための運動を進めるべきであります。県においても高校進学率の変化に応じて現在の学区の変更に着手することが予測されますし時期としても今が機会であると思っております。

新年の挨拶が新年の話題提供となりましたが、ご検討をお願い申上げまして皆様のご健康とご多幸をお祈りし新年の挨拶といたします。

小須戸町長選挙日程決まる

一月二十六日告示　二月二日投票日

任期満了（二月十一日）に伴う小須戸町長選挙の日程等が次のとおり決定しました。

記

一、告示日　一月二十六日

二、立候補〆切日　一月二十七日

三、投票日　二月二日

町長選挙の投票は条例に基づき記号式投票によって行ないます。

『記号式投票』とはあらかじめ投票用紙に候補者の氏名を印刷した投票用紙に、自分が投票しようとする候補者に○をつける方法です。

○をつける場所は、候補者の氏名を印刷した上に○をつける欄がありますから、その中に○を書いて下さい。

欄外に○を書いたり、△や×を書いたり、外に字を書いたりすると全部無効になりますから御注意下さい。

又、今回あらたに選挙権を有する方は次のとおりです。

一、昭和三十年二月三日以前の出生者

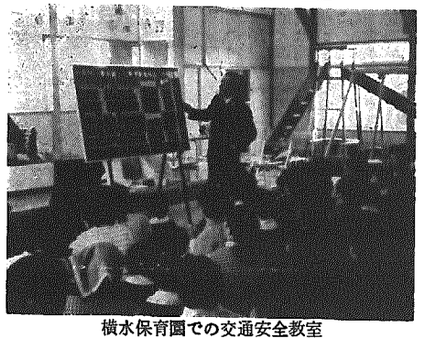
二、昭和四十九年十月二十五日以前に転入届をした方

次に選挙権が抹消される方

一、昭和四十九年十月二日以前に本町から転出された方

尚、今回の町長選挙は町の選挙でありますので、昭和四十九年十月二日以降に転出された場合も選挙権を有しなくなり、投票する事が出来ませんので申し添えます。

各地で……交通安全教室



横水保育園での交通安全教室

冬の交通事故防止と飲酒運転追放一〇〇日運動が実施されているなかで、各地区では、交通安全教室が開かれ、町民総ぐるみの交通安全運動が展開されています。

（その一）横水保育園母の会では親と子がいっしょになって交通安全教室を開きました。通園時の事故防止と信号機の見分け方などについて熱心に受講しました。

（その二）横川と小向両部落の老人会では、十二月五日横川の公会堂で、冬の健康法と、交通安全について、映画や、信号機による講習会を開催しました。

交通安全は町民一人一人が自己を交通事故から守る心構えが大切なのです。

優良無事故運転者表彰者の内申

交通安全協会

◎表彰の対象

連名表彰（県警本部長名・県安全協会長名）普通免許以上の人

単独表彰（県交通安全協会長名）

原付、小特、自二輪

軽の審査未済の免許所有者

地区表彰（新津警察署長名・新津地区交通安全協会長名）すべての免許所有者

◎表彰の年限

連名単独…免許取得後七年、十五年、二十五年、三十年の区分で、正会員に限る

地区表彰…免許取得後五年で正会員、準会員に限る

基準日　昭和四十九年十二月三十一日

◎表彰の条件

▼新津地区交通安全協会員であること

▼被表彰年限中に行政処分（免許停止）を受けていないこと

▼優良条件として更新時講習又は安協主催の運転者講習を受講していること。

◎申請期限

該当する方は一月六日（月）から二月八日（土）まで各支部役員又は協会事務局（二一五一五一）へ会員証と免許証（十五年以上申請の方はその下の表彰状）を持参のうえ申請手続きをして下さい。

水道　冬季積雪時のメーター検針と水道料金

水道の使用料金はご存知のとおり毎月メーターを検針しその使用量によって料金を算定しております。しかし冬季積雪の多い時にはメーターが雪の下になり検針できない場合がありますので毎年雪の多い一月から三月までは過去の実績により料金を推定して徴収しております。

そこで過不足を生じた場合は四月分に還付または納入していただくことになりますのでご協力をお願いいたします。

入札結果

（日付は完了予定日）

一、社教センター本体工事　一億二千五百万円　本間組（六月三十日）

二、社教センター設備工事　三千二百万円　昭和設備工業（六月三十日）

三、社教センター電気工事　一千九百八十万円　大明電業（六月三十日）

四、給食センター車庫新築工事　三千四百五十万円　小川組（十二月十四日）

五、舗装工事小須戸保育園脇道　三十万円　日本舗道（十二月二十日）

六、舗装工事　二百十八万円　日本舗道（十一月三十日）

七、舗装工事　二番町裏　九十万円　日本道路（十二月二十五日）

八、舗装工事　諏訪町　百六十四万円　日本道路（十二月二十五日）

九、舗装工事　樋管堀　三百二十万円　本間組（十二月二十五日）

十、舗装工事　小須戸保育所　百五万円　日本道路（十二月二十日）

十一、舗装工事　横水保育所　十二万円　日本舗道（十二月二十日）